

2018年度 日本文化人類学会 第6回理事会 議事録

日時：2019年2月17日（日）13：00～18：00

会場：首都大学東京秋葉原サテライト会議室C

＜出席理事＞清水展、赤堀雅幸、綾部真雄、飯田卓、石田慎一郎、伊藤泰信、川田牧人、木村周平、栗田博之、曾我亨、棚橋訓、速水洋子

＜委任状提出者＞石井美保、風間計博、亀井伸孝、窪田幸子、佐々木重洋、高倉浩樹、中谷文美、松村圭一郎、森田敦郎、森山工、箭内匡

＜出席監事＞関根康正

〔承認事項〕

1. 2018年度第5回理事会 議事録（案）を一部文言修正の上、承認。
2. 新入会員（5名）につき、総務会で入会を承認したことを報告し、事後承認。
3. 「東日本大震災の被災会員に対する2018年度会費徴収特例措置」の申請1件につき、総務会で特例措置の適用を承認したことを報告の上、事後承認。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・学会主催公開シンポジウム「現在・未来の経済社会に向けた人類学的知の再構築」の開催（12月23日、立命館大学）について報告。
 - ・第5回国際シンポジウム「東アジアにおける人類学の国際化／グローバル化：第三部台湾と日本」の開催（1月26日、慶応義塾大学）について報告。
 - ・事務局員雇用契約について、理事の協力を仰ぎつつ進めることを確認。
 - ・渋澤民族学振興基金選考委員について、前回の審議に基づき候補者に内諾を得た上で推薦したことを報告。
 - ・大学改革支援・学位授与機構の研究評価及び認証評価委員会専門委員候補者について、前回審議を基に各候補者に内諾を得た上で8名を推薦したことを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・文部科学省のアイヌ研究倫理委員会に窪田幸子理事を日本文化人類学会からの委員として推薦することを理事会メーリングリストで審議し、承認を得たことを確認。
 - ・第5回三笠宮オリエント学術賞について応募者から選考し、推薦したことを報告。
3. 会計理事報告
 - ・2018年度決算書について、法人化に対応した様式だけでなく、従来と同様の形式でも作成を進めることを報告。
 - ・各理事に対し、今年度中の支出予定及び来年度の予算要求があれば、3月14日までに事務局へ連絡するよう依頼。
4. 総務理事報告
 - ・GEAHSS負担金について、前回の審議を受けてGEAHSS側へ金額の根拠を問い合わせた上で理事会メール稟議を行ったことを報告。メール稟議の結果に基づき、GEAHSS会費に

については第1案（一律5000円）ならびに第2案（1000人以上の学協会で10000円）のいずれでも賛成する旨、GEAHSS事務局へ連絡したことを報告。

5. 広報理事報告

- ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき12件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。JASCA-NETに転送を促す内容を含んだ投稿があり、投稿者に委員長名で注意喚起したことを報告。

6. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：83巻4号の進捗状況について報告。また83巻3号に関する会員からの意見と、それへの対応について報告。
 - ・JRCA編集委員会：欠席の佐々木編集主任に代わり木村庶務理事より、19巻1号以降の編集の進捗状況について報告。
 - ・法人化対応委員会：法人化に伴う各種規程の策定について進捗状況を報告。
 - ・国際化グローバル化対応委員会：IUAES会長を務める小泉潤二会員からの情報として、AAAが開設しようとしているOARR（Open Anthropology Research Repository）に関わる議論を紹介。小泉会員がIUAESとWCAAを統合してWAUを組織したことを評価され、アメリカ人類学会で会長賞（Presidential Award）を受賞したことを報告。
 - ・課題研究懇談会担当委員会：欠席の森田理事に代わり木村庶務理事より、研究会の開催状況、開催予定を報告。
 - ・学会歴史委員会：委員会の活動のこれまでの経緯と今後の課題について説明。文化人類学者・民族学者のインタビュー映像記録の管理と再公開に関わる問題点、活動を進める上での「学会にとって歴史とは何か」という根本的な問いを考える必要があることを報告。学会歴史の記録、研究や議論を支援するシステムの構築についての意見、インタビュー映像記録の公開の手続きに関する意見が出された。
 - ・研究大会運営検討委員会：弘前大会以降の、理事会と開催校による研究大会運営の方式をより持続可能なものにする方策についての議論の進捗状況を報告。理事会と開催校に加え、支援校制度を設定する案を紹介。今後に向けて、意見交換が行われた。
 - ・研究大会実施委員会：発表要旨の査読と第3回サーキュラーの公開について報告。前回審議されたシンポジウムについては、科研審査改革に関わるもののみを行う予定であることを報告。
 - ・地区研究懇談会：各地区の研究会の実施状況、実施予定について報告。
7. 日本学術会議 文化人類学関係分科会報告：高倉理事より、各分科会での議論の内容について報告。清水会長が『学術の動向』に執筆する予定であることを報告。

〔審議事項〕

1. 事務局室の契約について

- ・清水会長より、法人化に伴う三田の事務局室の再契約について、小馬徹会員の仲介で、事務局室の所有者である神奈川大学に事情を説明したこと、先方から契約書（案）が提示されたことが説明され、審議の結果、提示された案の通り、神奈川大学との契約を締結することが承認された。なお、契約が終了する3年後に備えて、今回の経緯について記録を残しておくこととした。

2. 任意団体の解散日について

- ・清水会長より、2019年3月末日を任意団体としての日本文化人類学会の解散日とすることが提案され、審議の結果、承認された。解散日については、学会HP、JASCA-INFO、および郵送で周知することとした。
3. 法人化に伴う財産移行について
 - ・石田会計担当理事より、任意団体から法人への財産譲渡のため、（任意団体）日本文化人類学会会長名で（任意団体）日本文化人類学会の財産目録が提出されたことが報告され、審議の結果、これを（一般社団法人）日本文化人類学会会長名で2月17日付で受領し、財産目録に基づき、任意団体の財産を法人に移行することが承認された。
 4. 植松東アジア研究基金について
 - ・石田会計より、日本文化人類学会植松東アジア研究基金に関わる研究促進事業の募集要項・応募申請書について提案があり、意見交換が行われ、出された意見を踏まえて、最終版を委員会で作成し、総務会で確認の上、3月中に募集案内をJASCA-INFOと学会HPで周知し、4月より募集を開始することとした。
 5. 委員会構成の変更について
 - ・川田総務理事より、アイヌ研究を扱う特別小委員会として「アイヌ研究特別小委員会」を倫理委員会の下に設け、窪田理事、太田好信会員を委員、川田総務理事をオブザーバーとすることが提案され、審議の結果、承認された。
 6. 今後の委員会構成について
 - ・川田総務理事より、近年の委員会数の増加、それに伴う理事の業務の増大を背景に、第29期以降、理事をいくつかのクラスターに分けてカバーし合い、1人あたり1委員会の委員長を担当するとともに、各委員会は理事外からもひろく委員を募り協力してもらうことをベースにして理事会の構成を見直すことが提案され、そのような方向で検討を進めることが承認された。
 7. 第14回学会賞について
 - ・学会賞選考委員会による第14回学会賞の選考経緯と選考結果の報告がなされ、投票の結果、原案通り承認された。授賞理由書の作成については、総務会へ一任することとした。また、第14回学会賞及び奨励賞の選考結果については、例年通りJASCA-INFO及び学会HPで周知を行うこととした。
 - ・委員会より、学会賞を2年に1度の授賞としてはどうかとの提案があり、次回以降の理事会で検討することとした。
 8. 名誉会員の推戴について
 - ・清水会長より、2019年度に日本文化人類学会名誉会員内規第二章第二条の条件を満たす会員2名を総会に推薦することが提案され、審議の結果、承認された。また第二項による推薦について、理事から提案を募ることとした。
 9. 『文化人類学』原稿投稿時の英文要旨作成免除について
 - ・綾部編集主任より、学会誌における英文率の向上を見据え、『文化人類学』への投稿時の英文要旨作成を免除する暫定ルールを設定し、このルールを学会員に周知することが提案され、審議の結果、承認された。なお、また英文要旨作成は論文採択後となることを確認した。
 10. 『文化人類学』への出版社広告の掲載に関する広報について
 - ・綾部編集主任より、出版社広告増に向けた提案があり、学会HPで広報することを承認

した。

11. 課題研究懇談会の継続について

- ・委員会での検討結果に基づき、課題研究懇談会「医療人類学教育の検討」の2019年度の継続申請について審議が行われ、継続が承認された。

以上